

新しい福島県総合計画に関する 高校生・大学生アンケート調査結果概要

平成21年3月27日

福島県 企画調整部 総合計画課

目次

1. 調査概要	1
2. 調査結果	2
(1) 本県のイメージ	2
(2) 本県に対する愛着	3
(3) 本県への定着意識	4
(4) 就職、進学を希望する地域	6
(5) 希望地域の選択理由	8
(6) 就職先を決める際に重視する基準	11
(7) 本県の将来に希望すること	12
(8) 自由意見	13
3. 調査結果の活用方法	14

1. 調査概要

(1) 調査の目的

平成22年度にスタートを予定している新しい福島県総合計画の策定にあたり、計画づくりの参考とするため、本県における人口減少の要因の一つである若者の県外流出の要因の把握を中心に、本県の将来を担う高校生・大学生に対してアンケート調査を実施した。

(2) 調査時期

平成20年12月～平成21年2月

(3) 調査対象者

○高校生アンケート

県内の県立、及び私立高校に在学する高校2年生 1,125人

○大学生アンケート

・県内大学に在籍する大学3年生(短期大学1年生、高等専門学校4年生) 753人

・県外大学(主に首都圏の大学)に在籍する大学3年生(短期大学1年生、専門学校生)

のうち、Uターン就職セミナー等の参加者 117名 計 870名

(4) 調査方法

○高校生アンケート

県内の高校の中から、所在地域の県内バランスや普通科及び専門科等のバランス、地域人口等を考慮して31校を指定し、2年生1クラスにおいて調査を実施した。

○大学生アンケート

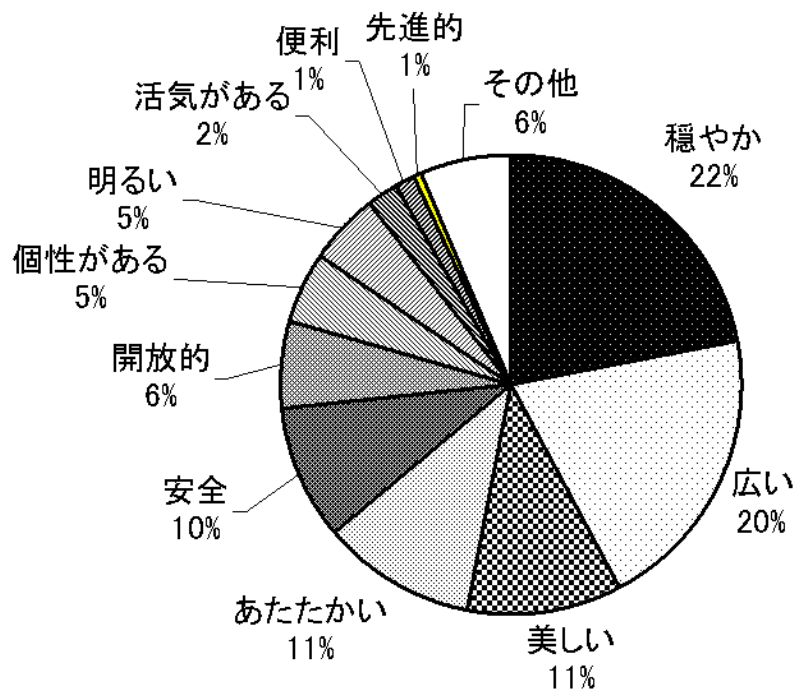
・県内大学生に対しては、福島県高等教育協議会に在籍している県内大学(※放送大学を除く。大学9、短期大学5、高等専門学校)に調査票を送付し回収した。

・県外大学生に対しては、「ふるさと福島就職情報センター」等と連携し、民間企業が実施するUターン就職セミナーや大学内企業説明会、及びFターン窓口等で調査票を配布し回収した。

2. 調査結果 (1)本県のイメージ

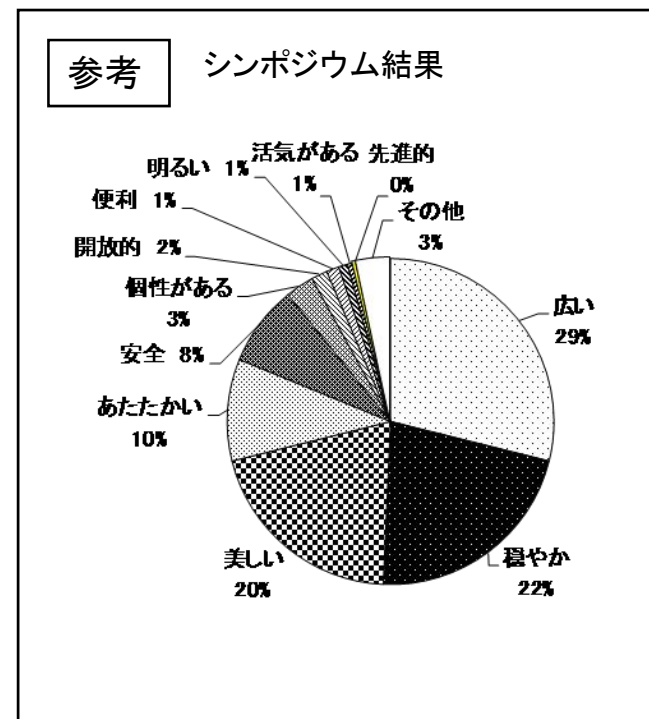
○本県のイメージ

本県について、「穏やか」、「広い」、「美しい」、「あたたかい」、「安全」といったイメージを持っている。



(その他の意見)

「田舎」(60件)、「不便」(21件)のほか、「活気がない」、「印象が薄い、地味」、「つまらない」、「暗い」など。



2. 調査結果 (2)本県に対する愛着

○本県に対する愛着

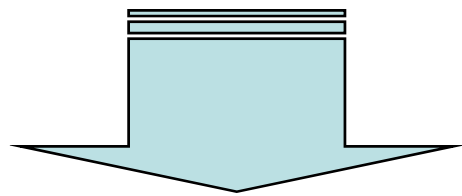
- ・約8割が「好き」、「まあまあ好き」と回答
- ・男性よりも女性の方が「好き」、「まあまあ好き」の割合が高い。

【高校生】

- ・地域別では、「好き」、「まあまあ好き」の割合は、会津地域で高く、県南地域で低い。

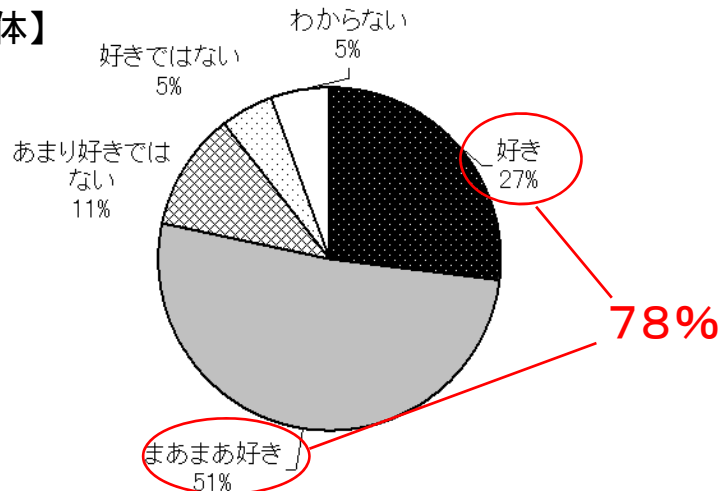
【大学生】

- ・県内出身者の約9割、県外出身者の約7割が「好き」、「まあまあ好き」と回答。

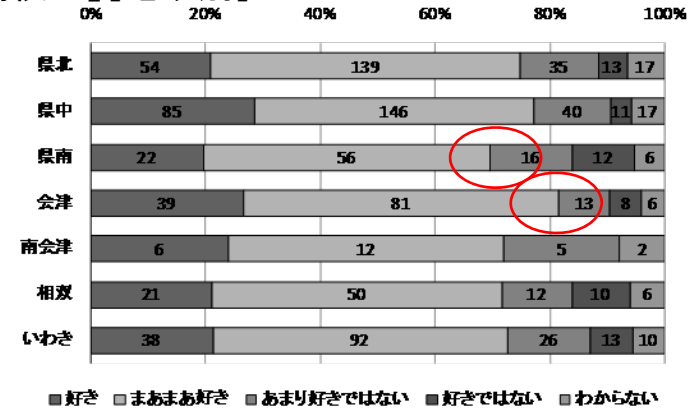


若い世代における本県に対する愛着は、比較的高い。

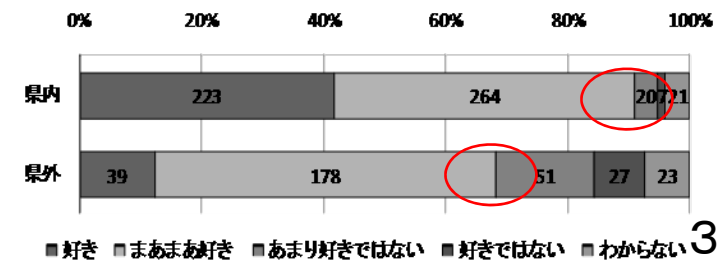
【全体】



【高校生】[地域別]



【大学生】[出身地別]



2. 調査結果 (3) 本県への定着意識

○県内への定着意識

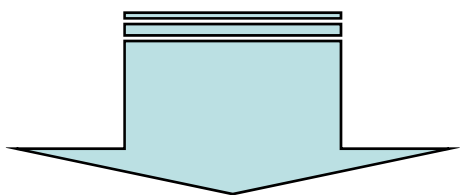
- ・約半数が「ずっと住みたい」、「将来は戻ってきたい」と回答
- ・約2割が「住みたくない」と回答

【高校生】

・地域別では、「ずっと住みたい」、「将来は戻ってきたい」の割合は、南会津地域で高く、県南地域で低い。

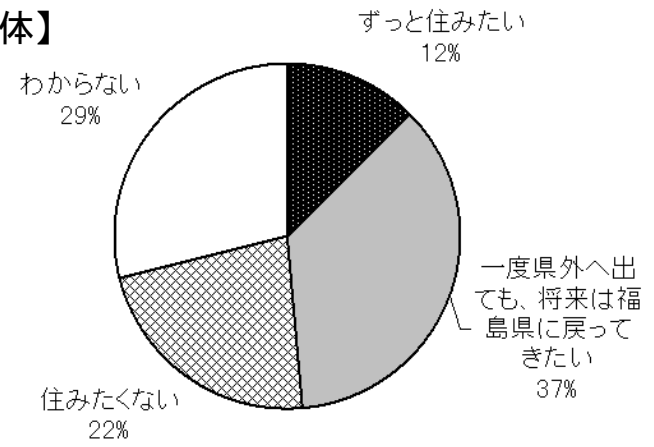
【大学生】

- ・本県出身者の約7割が「ずっと住みたい」、「将来は戻ってきたい」と回答。
- ・一方、県外出身者では、1割にも満たない。

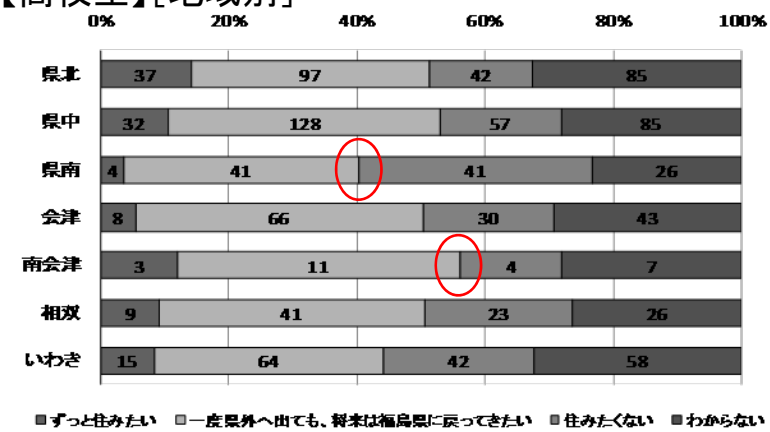


愛着があるが、「住みたくない」と思っている人も多い。特に県外出身の大学生を本県に定着させるのは難しい。

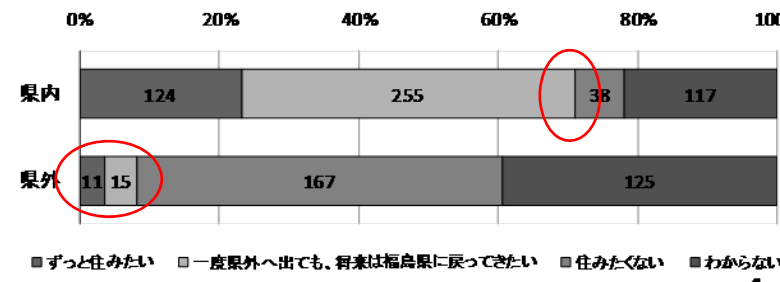
【全体】



【高校生】[地域別]



【大学生】[出身地別]



2. 調査結果 (3) 本県への定着意識

○本県に住みたくない理由

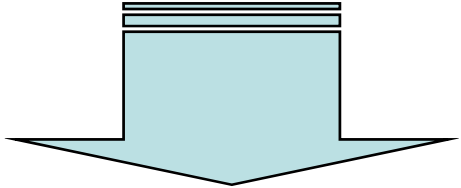
「親と離れて住みたいから」以外の理由がほぼ同数であった。

【高校生】

「希望する就職先、進学先がないから」、「魅力あるイベント、施設が少ないから」、「日常の買い物、通勤、通学など生活が不便だから」の順が多い。

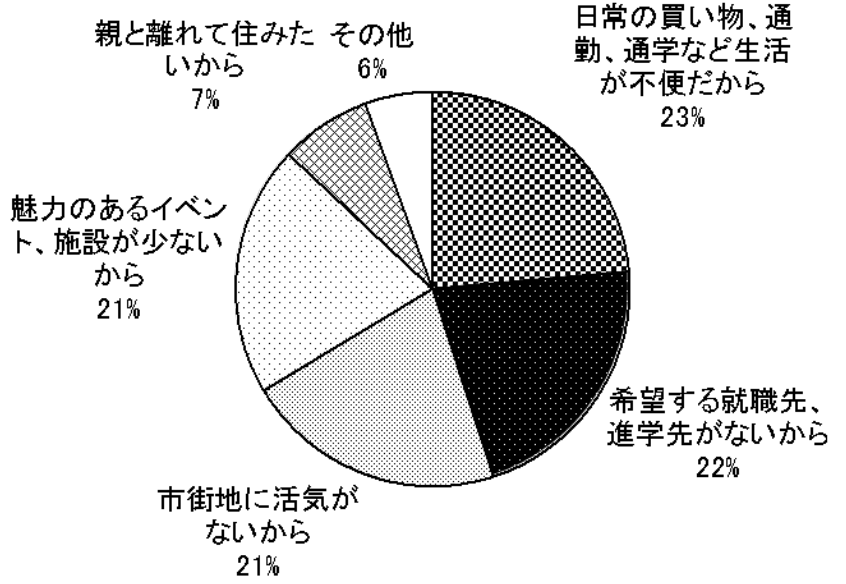
【大学生】

「日常の買い物、通勤、通学など生活が不便だから」、「市街地に活気がないから」、「希望する就職先、進学先がないから」の順が多い。

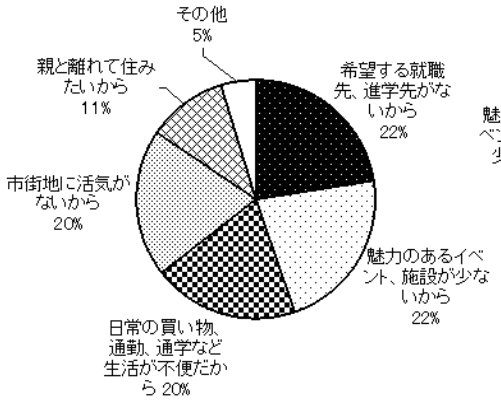


若い世代を本県に定着させるためには、生活の利便性向上や市街地活性化、就職・進学先の確保等、総合的な対策が必要。

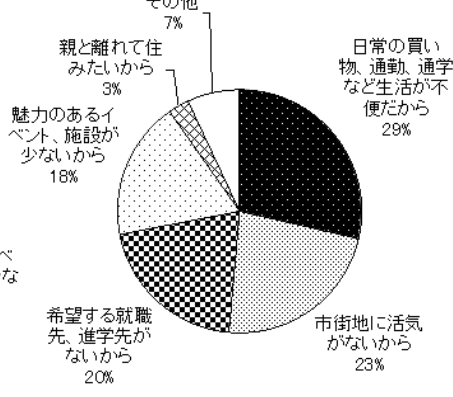
【全体】



【高校生】



【大学生】



2. 調査結果 (4)就職、進学を希望する地域

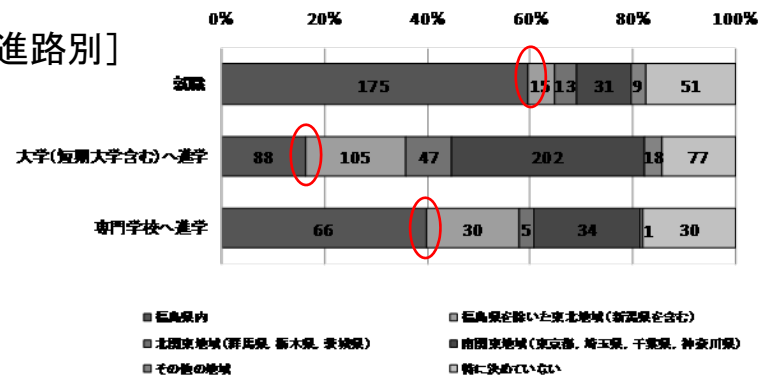
○就職、進学を希望する地域(1)

県内希望が約36%、県外希望が約48%である。
特に南関東地域への希望が多い。

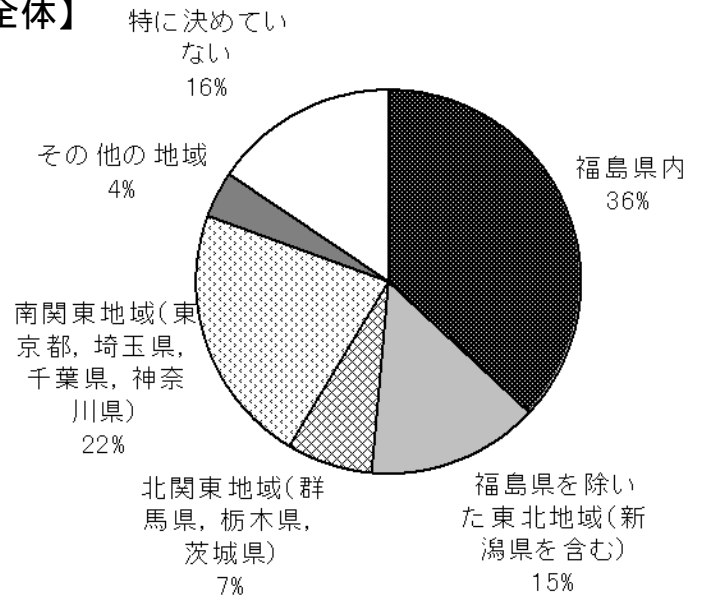
【高校生】
[進路別]
・就職希望者の約6割、専門学校進学希望者の約4割が「福島県内」での就職、進学を希望している。
・大学進学希望者のうち「福島県内」を希望しているのは2割にも満たず、約7割が県外への進学を希望している。

[地域別]
・「福島県内」を希望する割合が県北地域、県中地域で高い。
・「東北地域(新潟県を含む)」を希望する割合が県北地域、南会津地域、相双地域で高い。
・「南関東地域」を希望する割合が県南地域、いわき地域で高い。

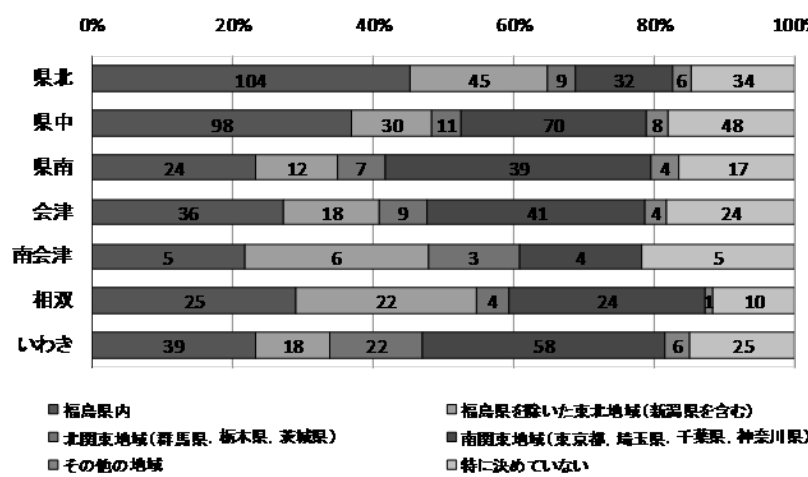
【高校生】[進路別]



【全体】



【高校生】[地域別]



2. 調査結果 (4)就職、進学を希望する地域

○就職、進学を希望する地域(2)

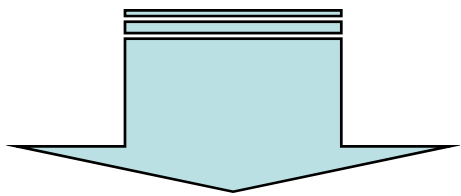
【大学生】

・県内大学生753人の内訳は、本県出身者418人(56%)、県外出身者319人(42%)、無回答16人(2%)であるが、県内での就職(進学)を希望する学生は280人(38%)、県外での就職(進学)を希望する学生は344人(46%)である。

→本県出身で県内に居住している大学生でさえ、大学卒業後4人に1人が県外への就職(進学)を希望している。

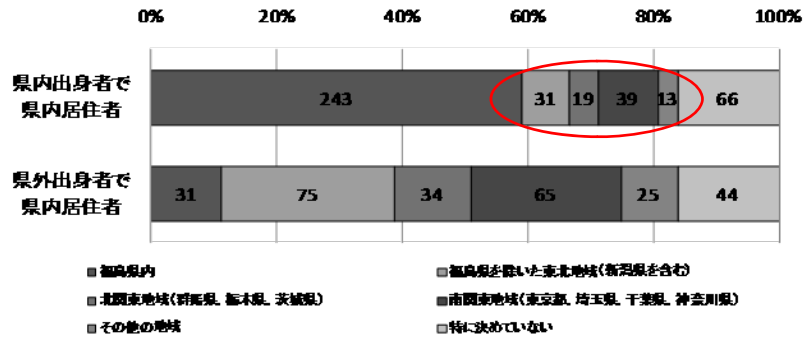
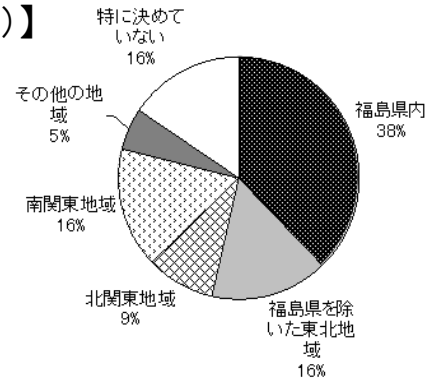
[出身地別]

- ・本県出身者の約6割が県内での就職(進学)を希望している。一方で、2割以上が県外を希望している。
- ・県外出身者のうち、県内での就職(進学)を希望しているのは、約1割であり、7割以上が県外を希望している。

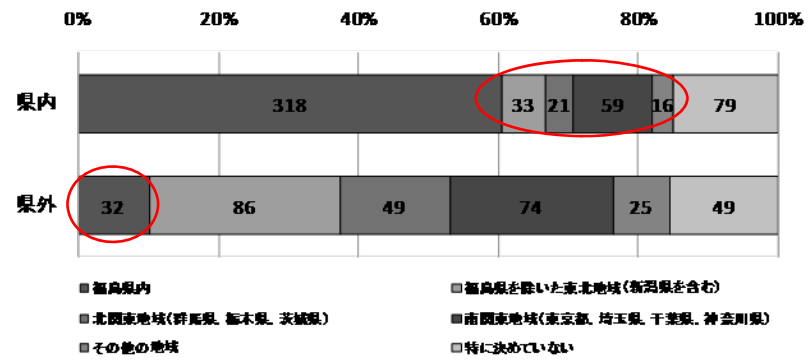


高校卒業後に進学のため県外へ流出するだけでなく、本県出身者が県内の大学を卒業後、就職する際にも県外へ流出することが予想される。

【大学生(県内大学生)】



【大学生】[出身地別]



2. 調査結果 (5) 希望地域の選択理由

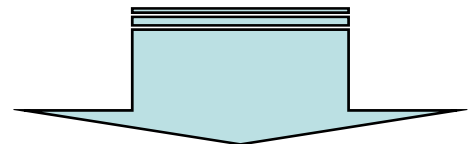
○希望地域の選択理由(1)

【高校生】

- ・「希望する進学先があるから」、「希望する就職先があるから」を合わせると4割以上になる。
- ・「その地域に住んでみたいから」、「親元を離れたいから」という理由も合わせて約2割になる。

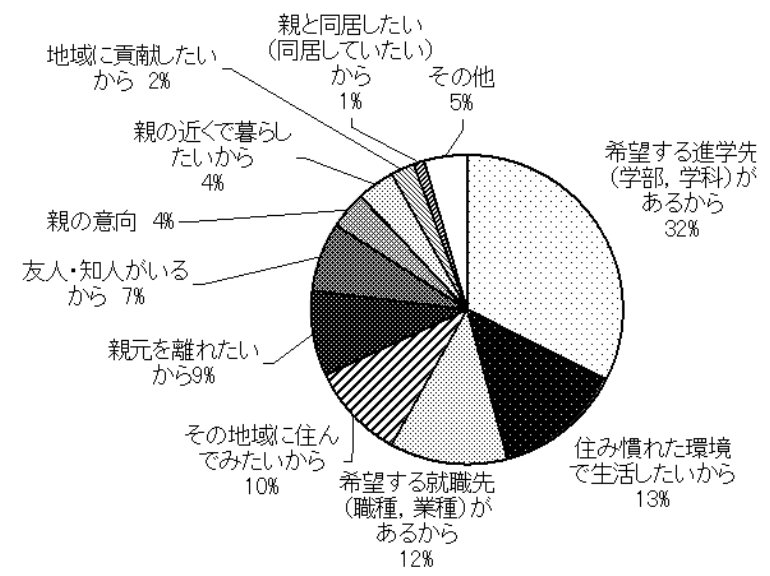
【大学生】

- ・「住み慣れた環境で生活したいから」が最も多い。
- ・「希望する就職先があるから」、「希望する進学先があるから」を合わせると2割になる。
- ・「地域に貢献したいから」の割合が高校生に比べて高い。

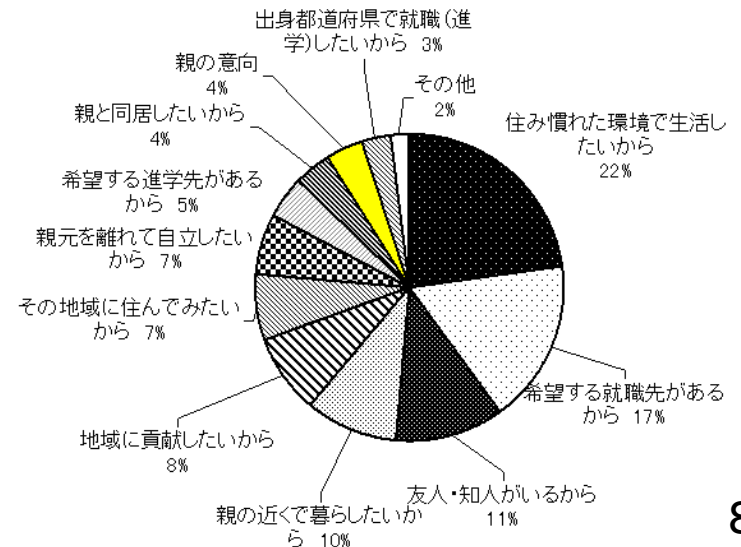


高校生は進学先や就職先があるかどうか
が重要であり、大学生は、生活環境や地域
貢献に対する意識が高い。

【高校生】



【大学生】



2. 調査結果 (5) 希望地域の選択理由

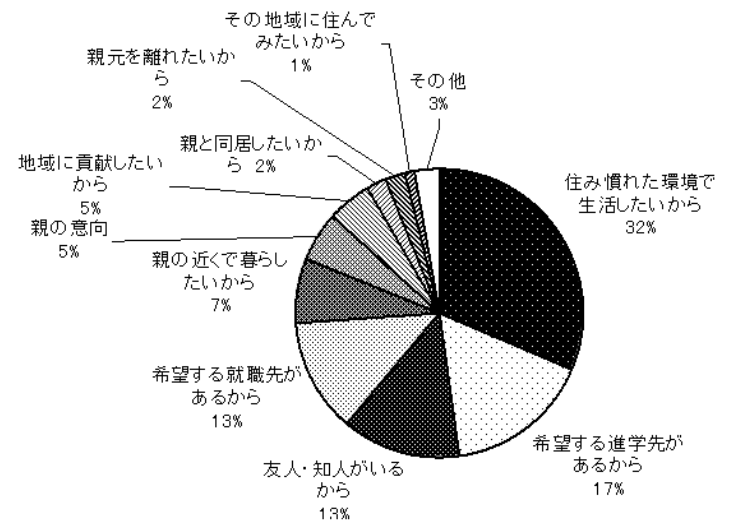
○希望地域の選択理由(2)

【高校生】 [希望地域別]

《「福島県内」を希望》

「住み慣れた環境で生活したいから」が約3割で最も多く、続いて「希望する進学先があるから」、「友人・知人がいるから」となっている。

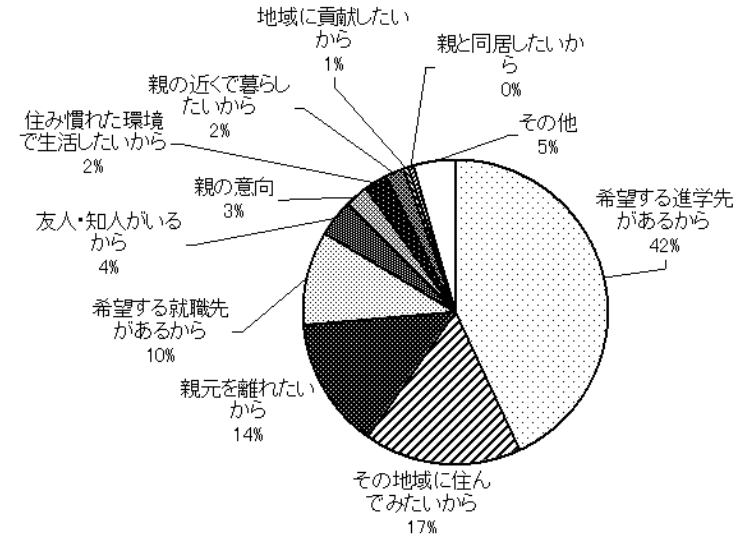
《「福島県内」を希望する理由》



《「福島県外」を希望》

「希望する進学先があるから」が約4割と最も多く、続いて「その地域に住んでみたいから」、「親元を離れたいから」となっている。

《「福島県外」を希望する理由》



2. 調査結果 (5) 希望地域の選択理由

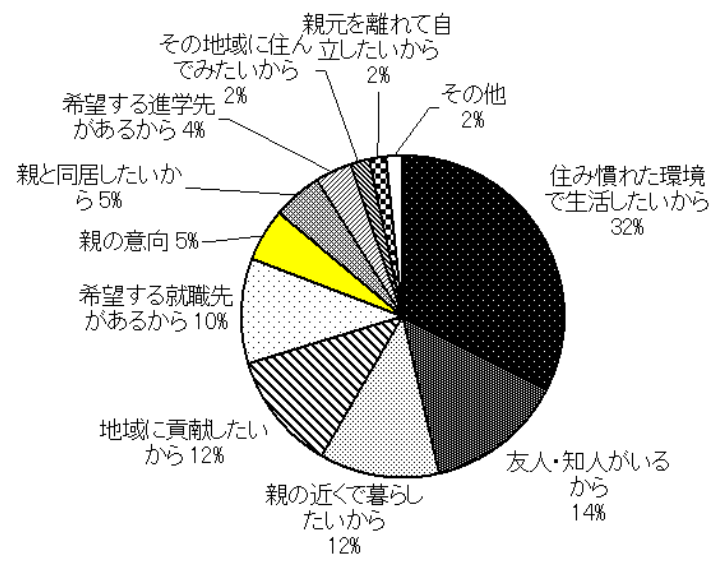
○希望地域の選択理由(3)

【大学生】[希望地域別]

《「福島県内」を希望》

「住み慣れた環境で生活したいから」が約3割で最も多く、続いて「友人・知人がいるから」、「親の近くで暮らしたいから」、「地域に貢献したいから」となっている。

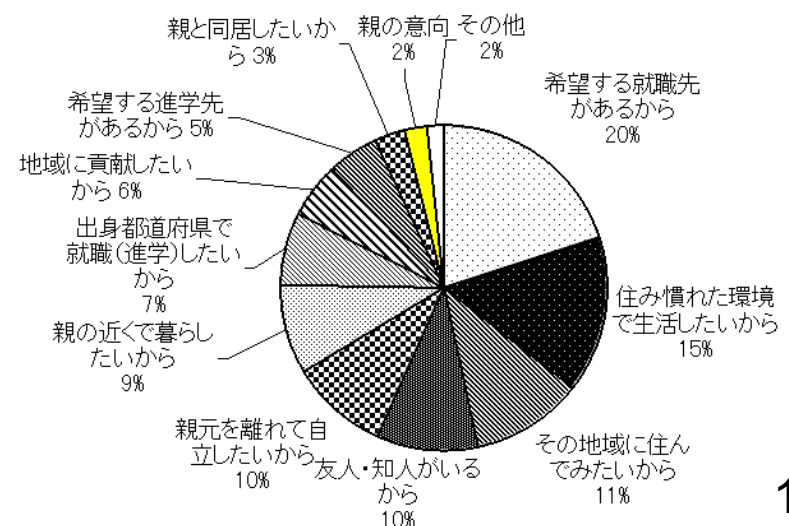
《「福島県内」を希望する理由》



《「福島県外」を希望》

「希望する就職先があるから」、「住み慣れた環境で生活したいから」、「その地域に住んでみたいから」の順に多い。

《「福島県外」を希望する理由》



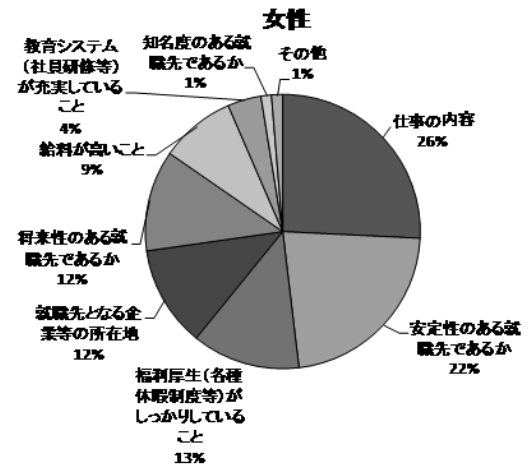
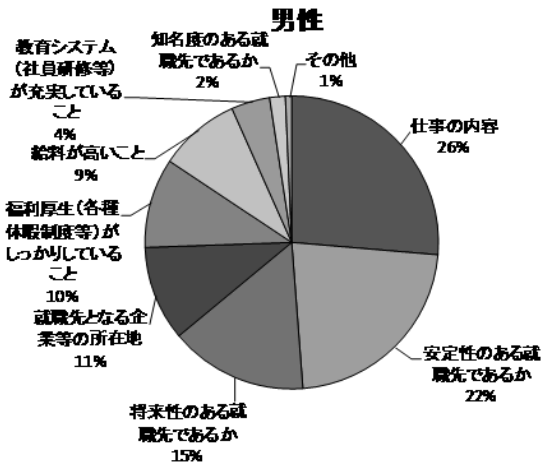
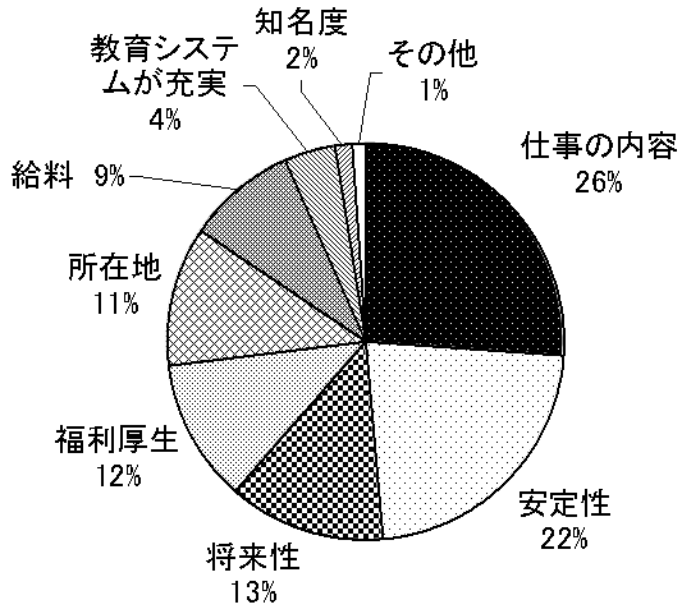
2. 調査結果 (6)就職先を決める際に重視する基準

○就職先を決める際に重視する基準

就職先を決める際に重視する基準としては、「仕事の内容」が最も多く、続いて「安定性」、「将来性」となっている。

[男女別]

男女ともに「仕事の内容」、「安定性」を重視しているが、男性では「将来性」、女性では「福利厚生」を重視している傾向がある。

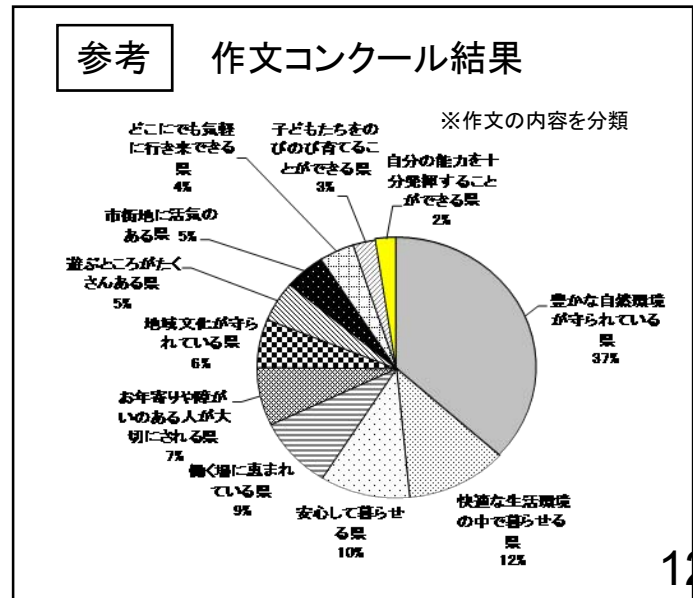
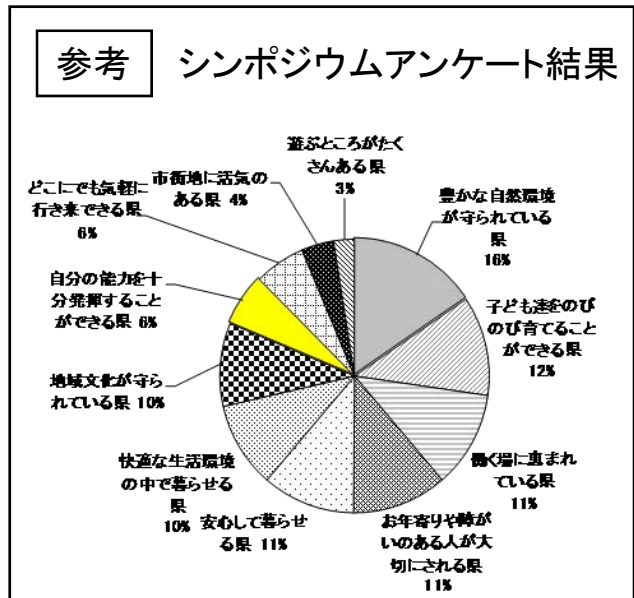
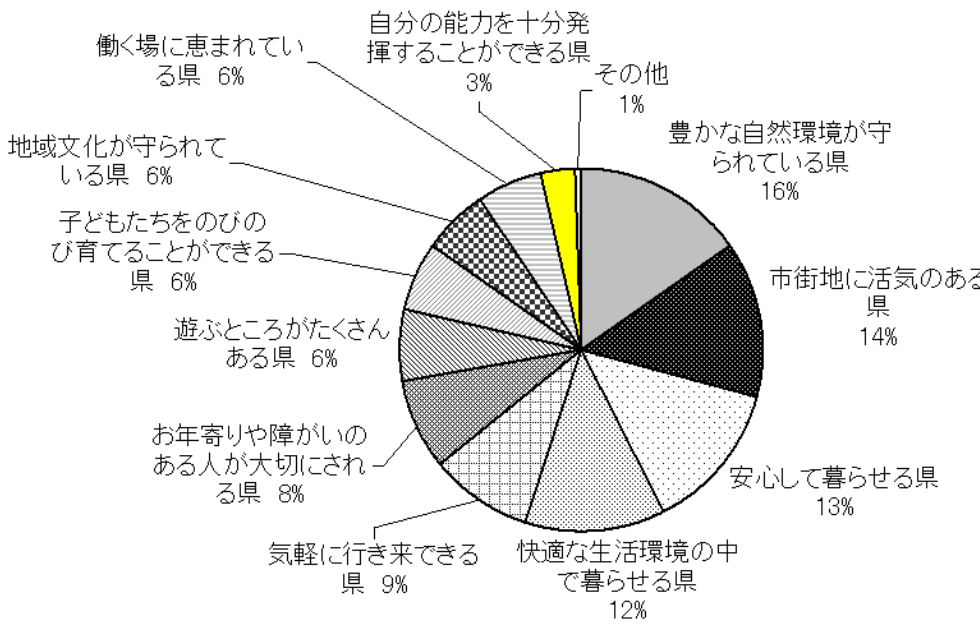


2. 調査結果 (7)本県の将来に希望すること

○本県の将来に希望すること

(上位5つ)

- 豊かな自然環境が守られている県 16%
- 市街地に活気のある県 14%
- 安心して暮らせる県 13%
- 快適な生活環境の中で暮らせる県 12%
- 気軽に行き来できる県 9%



2. 調査結果 (8) 自由意見

○自由意見

「将来の福島県について希望すること」

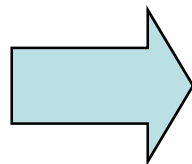
【回答数】 高校生455人、大学生286人

【主な意見】

- ・福島県をすばらしい県にするためには、まず県民がすばらしい県民になるべき。
- ・ほどよい田舎のままできてほしい。
- ・もっと有名な県になってほしい。
- ・物事に対する考え方が古いので、先進的な県になるべき。
- ・自然と人間の営みのバランスがとれている県であってほしい。
- ・もう少し買い物が便利になって、若者が県外に行かなくてもいい県になってほしい。
- ・地方は地方のよさがあるので、都会を目指すのではなく、心が安らぐような自然いっぱいの県になってほしい。
- ・他の県に過剰に張り合わず、福島県は福島県「らしさ」を大切にしてほしい。
- ・あまり都会に惑わされず、「うつくしま、ふくしま。」の名にかけて、自然を守り続けてほしい。
- ・もっと開放的で、個性豊かな県になるといい。
- ・誰もが笑顔で暮らせる県になってほしい。
- ・グループ子会社ではなく、福島県に本社のある企業を増やしてほしい。
- ・農林水産業で日本のモデルケースになってほしい。

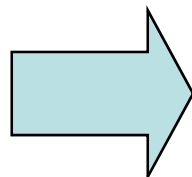
3. 調査結果の活用方法

- 本県のイメージ
- 本県に対する愛着
- 本県の将来に希望すること
- 自由意見



「めざす将来の姿」、「ふくしまの基本方向」を検討するために活用する。

- 県内への定着意識
- 本県に住みたくない理由
- 就職、進学を希望する地域
- 希望地域の選択理由
- 就職先を決める際に重視する基準



総合計画を策定する上での基礎的な意識調査資料として使用するほか、商工労働、教育等各分野別計画の検討のための基礎資料として活用する。

※高校生、大学生の各アンケート調査結果報告書は、県内の全ての高等学校、大学に配布し、業務の参考資料として活用してもらう。